

第 3 1 回

日・韓・中 ジュニア交流競技会 和歌山大会

参加報告書

2 0 2 3 年 8 月 2 4 日（木）～ 2 8 日（月）

和歌山県・和歌山市

全国高等学校体育連盟テニス専門部

〔参 加 者〕

総監督	門田 聖五	(全国高等学校体育連盟テニス専門部近畿地区常任委員)
男子監督	前崎 直哉	(関西高等学校)
女子監督	平良 和己	(沖縄尚学高等学校)
男子選手	山本 夏生	(相生学院高等学校)
	本山 知苑	(四日市工業高等学校)
	木村 一翔	(関西高等学校)
	浅田 紘輔	(佐土原高等学校)
女子選手	津田 梨央	(名古屋経済大学市邨高等学校)
	林 妃鞠	(四日市商業高等学校)
	岡村 凜那	(鳳凰高等学校)
	水口 由貴	(沖縄尚学高等学校)

「第 31 回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して」

男子監督 前崎直哉（岡山県私立関西高等学校）

初めに、本競技会に参加する機会を与えてくれた日本スポーツ協会、全国高体連テニス専門部、総監督として様々な調整を行っていただいた門田先生、女子監督の平良先生、そして選手に感謝しております。

私は 4 年ぶりに開催となった第 31 回日・韓・中ジュニア交流競技会に日本代表男子監督として参加させて頂きました。監督決定後は、選手及び各学校顧問とコミュニケーションを図り、全国大会を通じて選手のプレーやコート内でのリズムなど特徴を理解するように意識しました。協力してくれた各顧問の先生方にこの場を借りて、感謝を申し上げます。

顔合わせとなった初日の練習では、主にダブルスのペアリングをどうするかを男子メンバーの意見を聞きながら複数パターン試し、インターハイ・全日本ジュニアのダブルスで優勝した本山知苑を中心にペアを構成した。少ない時間ではあったが、シングルの試合形式も行い 4 人が良い状態で試合に挑むことが出来た。

ミーティングでは、同時期に開催されたグランドスラムの 1 つである US オープンに過去に本競技会に参加した加治遥選手（第 20 回大会）、島袋将選手（第 23 回大会）、野口莉央選手（第 24 回大会）が挑戦すること、日の丸をつけて戦った経験が未来に繋がっていることを伝え、選手たちの表情も引き締まり良い状態で試合に挑むことが出来た。

初日の韓国戦はシングルスで 2 本ずつ取り合って、勝負のダブルスでは本山知苑とエースの山本夏生を投入し、サーブを含めた速いテンポで優位に試合を進め勝利を決めた。韓国代表チームは 4 名ともショットの威力が素晴らしく、調子のよい時間帯にはなかなかゲームを取ることが出来なかった。そのような状況でも、様々な戦術を駆使して良いパフォーマンスを魅せてくれた選手達のレベルの高さを改めて感じた対戦となった。

2 日目は地元和歌山県チームとの対戦。シングルスで 4 本全て勝利し、迎えたダブルスではシングルスで勢いのある浅田紘輔と木村一翔の 2 年生ペアを起用した。3 年生ペアよりもそれぞれのショットでの精度は劣るが、思い切りのよいプレーで勝利をおさめ、優勝をかけた中国戦へと弾みをつけた。

3 日目の中国戦では、ここまでエースとして全勝だった山本夏生が接戦の末に敗れたが、インターハイや全日本ジュニアで見つけた課題を少し克服できた良い試合だった。本山知苑、木村一翔が続けて勝利し、最後は浅田紘輔が勝利し、日本の優勝が決まった。ダブルスは本山知苑と木村一翔を起用し、ストレートで勝利。来年度も高体連でレベルアップを図る木村一翔にとって、インターハイ優勝を経験した本山知苑とのダブルスは今後に良い影響があると信じている。

また、男女間のコミュニケーションは十分に取れており、チーム JAPAN は良い雰囲気で大大会期間を過ごすことが出来た。海外選手とのコミュニケーションは韓国代表選手と会話

をしたり、写真を取ったり、SNS を交換したりなど、十分に取ることが出来ていた。今後も今回の経験を忘れずに積極的に異文化を受け入れる人間になってほしいと願っている。

また私事です、9 年前に開催された本競技会（第 22 回）に男子代表選手として選出されており、立場は変わったが男子代表監督として、当時の女子代表監督だった平良先生と本競技会に参加出来たことを嬉しく思っています。いつの日か、今回参加したメンバーの中から日本代表監督に就任する選手が出てくれることを期待しております。

最後になりましたが、インターハイ・全日本ジュニアと国内最高峰の大会を戦い抜き、疲労もある中で、素晴らしいパフォーマンスを発揮し、日本代表チームをアベック優勝に導いてくれた男女 8 名の選手に最大級の感謝を申し上げるとともに、今後の日本テニス界を引っ張る存在になってくれることを期待しています。

第31回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

山本夏生（兵庫県・相生学院）

まずは今回日韓中の日本代表に選んで頂きありがとうございました。私自身海外選手との対戦経験はあるものの、日本代表としてテニスをするという経験はこれまでありませんでした。今回Japanの文字と日の丸が入ったユニフォームを着て、テニスをさせて頂いたことをとても光栄に思います。ありがとうございました。そしてまた、さらに大きな舞台で日の丸を背負い、日本を代表し、人のために自分のテニスをしたいと強く思いました。



これまでと違う監督、仲間とする団体戦ではいつもとは違うアドバイスをもらったり、いつもと違う雰囲気を感じました。その中で新たな気づきや発見がありました。今回のチームは皆明るいメンバーでした。お陰でリラックスして試合をすることができ、とても高いパフォーマンスを出すことができました。監督からも試合ごとにアドバイスをもらい、毎試合自分のプレーが良くなっているのを感じました。

そして韓国、中国の選手との交流においても得られるものがたくさんありました。お互いに母国語とは違う言語での会話は中々難しかったですが、その中でも知っている単語を使いコミュニケーションを図る事が出来ました。そして何よりテニスというスポーツが私たちの仲を深めてくれました。試合ではお互い全力でプレーし、その中でお互い感じるものがあり、試合が終わればお互いを讃え合い握手を交わす。試合前は喋らなかった相手とも試合が終われば、仲良くしゃべる事が出来ました。スポーツには様々な力がありますが、人と人をつなぐ力もその一つだと感じました。

これから先私自身がスポーツをしていく中でこのテニスというスポーツの素晴らしさを少しでも多くの人に伝えていきたいと思えます。自分のプレーで見ている人たちに感動を届けられるようなテニスプレイヤーになるために日々努力していきます。ありがとうございました。

第 31 回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

本山 知苑(三重県:四日市工業高等学校)



はじめに、今回の日・韓・中ジュニア交流競技会をサポートして頂いた関係者の皆様、スポンサーの皆様、引率して頂いた門田先生、前崎先生、平良先生、ありがとうございました。

今回の日・韓・中ジュニアでは、日本代表として戦うことは初めてだった為、とてもいい経験になりました。また、普段はライバルである選手達と一緒に団体戦を戦ったり、ダブルスを組んだりできた事はとても刺激的で勉強になりました。一緒に戦った事により良い友情関係も生まれました。今回の試合では多くの事を学びました。韓国や中国の選手は身長が高く体格も日本の選手に比べて良かったです。試合では、相手のサーブや力のあるストロークに押される事が多く、普段日本でプレーしていると感じないパワーの差をとて感じました。また攻撃力が高い分、ロングラリーが少なくポイントを早く終わらせてくる為、なかなかラリーにもっていけず自分の展開にする事ができませんでした。最初は海外の選手のプレーに慣れず、韓国戦のシングルスは負けてしまいましたが、そこから緩急をつけたり、球種を変えたりと自分のプレーができ、他の試合は全て勝つ事ができて良かったです。チームも1位を取ることができ、力を出し切る事ができました。世界で活躍する為に、体を大きくしパワーをつけ今以上に攻撃力を高めるといった課題も見つかりました。試合後にはフレンドシップ交流会があり、韓国や中国の選手との交流を深める事ができました。特に韓国の選手はフレンドリーな選手が多く、一緒に写真を撮ったり、会話をしたりしてこれまでにはなかった貴重な経験ができました。簡単な英語でしか話せなかったのもっと英語を学び、話す能力が必要だと強く感じました。

今回の日・韓・中ジュニア交流競技会では、日本代表として戦ったり、海外の選手と交流したりとテニスやテニス以外の事でも多くの事を学びました。この貴重な経験をさせて頂いた事に感謝し、今後の人生に活かしたいと思います。ありがとうございました。



「第31回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して」

木村一翔 （岡山県 関西高校）

今回日韓中ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。

今回この交流会に楽しみな気持ちもありましたが、不安な気持ちもありました。

自分は他の選手とは違って、今年の全国の戦績もあまり出ていないし他の選手とは違ってこれといった武器もないので自分が他の選手より劣ってしまわないか、足を引っ張ってしまわないかなど沢山の不安がありました。ですが、コーチ、監督方がサポートしてくださったおかげで楽しく、みんなと切磋琢磨して頑張ることが出来ました。みんな高校は違うけどこんな仲を深めたのはサポートしてくださった監督方のおかげだと思っています。そのおかげで自分の持ち味である場を明るくさせるという事が出来て、雰囲気も良く出来ました。

そして、なにより朝から健康の良い朝食、ホテルからコートまでのバスでの送迎、試合中は地元の人のボールパーソン、豪華な夕食など恵まれた環境に感謝しています。

1 試合目は韓国との対戦でした。韓国はみんなITFランキングが自分より上位の選手ですごいワクワクして試合に挑みました。自分はS3で出場し、サウスポアの選手とやりました。その選手はバックハンドの軌道が低くとてもやりづらい選手でしたが、行けるときにすぐ前に行くという形を意識してとりくみファーストセットを取れました。セカンドセットは自分の課題である集中力がかけてしまい、すぐ取られてしまいました。ファイナルセットはチームメイトがベンチに入ってくれたおかげでとても心強くプレーする事が出来ました。

2 試合目は和歌山との対戦でした。和歌山との試合ではS3とD1に出場させてもらいました。

シングルの癖のある選手に力んでしまい、苦戦してしまいました。また自分の悪い癖である下をむいてしまう事がなんどもあり自分の悪いところが出てしまいました。ですがダブルスではチームメイトといい雰囲気の中集中してやる事が出来ました。

3 試合目は中国との対戦でした。この試合もS3とD1に出場させてもらいました。シングルの身長が190

センチ以上ある相手と試合をしました。アウトのジャッジに文句をつけてきて一回はとても揉めてしまいました。それでも気持ちを切り替えてファイトする事が出来て勝つことが出来ました。

ダブルスでは 3 年生と組ませてもらい、普段できないプレーにもトライする事ができてダブルスなども少しだけうまくなった気がしました。

これで男子 3 勝 0 敗、女子 3 勝 0 敗で男女ともに優勝する事が出来ました。

この交流会を通してもっと質の高いボールを打ち続けてアグレッシブにプレーする事が大切だとわかりました。

とても良い経験をさせていただきありがとうございました。

第 31 回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

浅田 紘輔

(宮崎県・佐土原高等学校)



まず、はじめに「日韓中ジュニア交流競技会」に参加させていただきありがとうございました。また、引率してくださった門田先生、前崎先生、平良先生、そして円滑な大会進行にご尽力してくださった和歌山県テニス協会の方々を初めとする関係者の皆様本当にありがとうございました。

試合では初めて日本代表としてプレーするという緊張感がありましたが、チームですごく良い雰囲気の中で臨むことが出来たので良いパフォーマンスを出す事ができました。

初日の韓国戦では格上の相手と対戦でしたが、序盤の入りこそ良くなかったものの相手のテニスに対応してリズムを掴めるようになり 1st セットをタイブレークの末に取る事ができました。2nd セットは逆に相手のテンポに対応できずに奪われてしまいました。ファイナルセットの 10 ポイントタイブレークではすごく緊張してしまいリードされましたが、前崎先生の的確なアドバイスで相手のマッチポイントを連続で凌ぐ事が出来たのですが、あともう少しの所でミスが出てしまい 9-11 で敗れてしまいました。

翌日の和歌山戦では前日の敗戦の反省を活かして序盤から高い強度と集中力でリードし続ける展開をつくる事ができて 6-1, 6-1 で勝つ事ができました。そしてその後は木村さんとダブルスを組みました。初めて組んだとは思えないぐらい、とてもプレーしやすく早めにブレークする事ができて終始リードを保ちながら 6-2, 6-2 で勝つ事ができました。試合中には女子の選手がベンチコーチに入ってアドバイスしてくれたり、男女全員で応援してもらったりして、とても楽しい雰囲気で試合をする事ができました。

最終日の中国戦でも引き続き良いプレーができて、40-40 になるゲームがほとんどでしたが、そこで高い集中力でそのポイントを取りきることができて最終的に 6-0, 6-2 で勝つ事ができました。試合後には男女ダブルスの応援をして、無事に男女共に 1 位を取ることができて良かったです。

最後になりましたが、このような経験をさせて頂いた日本体育協会、全国高体連テニス専門部の皆様、引率をして頂いた先生方、そして日本チームのメンバーのみなさん、本当にありがとうございました。

日韓中交流大会を終えて

女子監督 平良和己

沖縄尚学高等学校

まず始めに、大会を開催して頂きました日本スポーツ協会様、運営にご協力頂きました和歌山県テニス協会、和歌山県高体連の先生方、ボールパーソンをして頂いた地元高校生の皆様には本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

8月25日～8月27日の3日間で開催されました、日韓中交流大会に女子監督として参加させていただきました。私は9年ぶり2度目の参加となります。当時は年齢も若かったこともあり右も左もわからない中、ただ夢中で試合を終えたように思います。今回は9年前の経験を活かし、選手への関わりやチーム全体をどのようにまとめて盛り上がっていけるかなど、短い期間の中で前回より少しは貢献できたかと思っています。そして、男子監督に9年前に男子の選手として一緒に参加した、関西高校の前崎先生と一緒に戦えたことも大変光栄に感じております。

初戦の韓国戦はNo.1の津田、No.2の林が快勝しリードする展開でしたが、No.3の岡村、No.4の水口が惜敗し2-2のタイに持ち込まれました。そこで津田・林がしっかりとダブルスを制して初戦の韓国戦に勝利することができました。初戦を勝つことができ、とてもチームの雰囲気も良くとても大きな1勝でした。その勢いで2戦目の地元和歌山県代表との試合では危なげなく5-0と大勝し、3日目、1位をかけた中国戦に臨みました。中国選手は気持ちを前面に出してくる選手が多く、勝利への執念を感じました。長身の選手が多く、サービスとフォアハンドの威力は物凄いものがありました。No.1の津田がもつれながらもストレートで勝利し、No.2林、No.3岡村が相手の勢いに押されて敗退し大手をかけられますが、No.4の水口が素晴らしいプレーで圧倒しストレート勝利。1位をかけた勝負は最終ダブルスにまでもつれ、津田・水口がインターハイ個人ダブルス優勝の実力を偉観なく発揮し、ファーストセットダウンという厳しい場面から勝利。見事、日本の1位を決めてくれました。嬉しいことに男子も全勝し、男女ともにアベックで優勝できました。選手の頑張りとは当然のこと、監督・団長も含めたチーム全体の素晴らしい雰囲気がこの結果に結びついたと思います。

近年では国内国際大会も増え、そこで獲得したITFポイントを足掛かりに海外での試合にチャレンジするなど、海外選手と試合をする機会が増えたことで日本のジュニア全体のレベルも向上してきたように感じます。インターハイや選抜で活躍した選手が、今後もっと世界の舞台で活躍できる環境が少しずつ、整ってきているのではないのでしょうか。

また、いいことばかりではありませんでした。最終戦で審判の判定をめぐり、中国選手ともめてしまい、最終的に対立意識を持たれたまま試合が終わってしまったことは残念でした。審判のついた試合でしたので、日本サイドに問題があったとは思っておりませんが、勝負以上に友好関係を大切にしなければならないこの大会で、このような終わり方が今後ないようにしていかなければならないと思います。韓国選手とはお互いのシャツを交代する

など対照的にとても友好関係を築いていました。今日の世界の社会情勢を踏まえても、日韓中の友好関係をこの大会からもっと良くしていけたらいいなと感じるところでした。

最後にこのような貴重な国際大会に選出して頂きました全国高体連テニス専門部も先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

第 31 回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

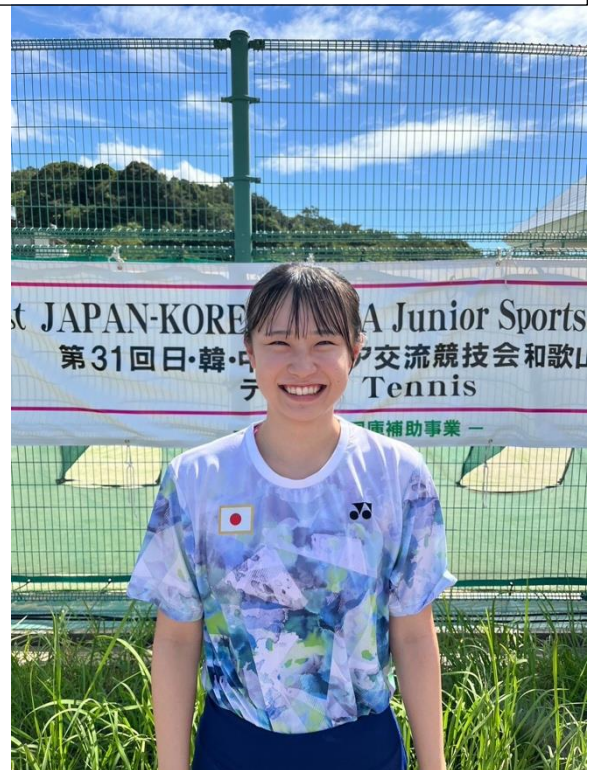
津田梨央 名経大市邨高校 2 年

はじめに、日・韓・中ジュニア交流競技会和歌山大会に参加させていただき、ありがとうございました。私は、今回の交流競技会に対して楽しみの気持ちと同時に大きな不安を抱えていました。7 月の上旬に出場した試合中に滑り、左足の靭帯を損傷してしまい、思うような準備をしてこれなかったからです。この怪我により、北海道インターハイ・全日本ジュニアの欠場を余儀なくされました。そのため私にとってこの夏は、長いようで短いような悔しい期間でした。しかし、今回の交流競技会で、日本国旗を胸元につけてプレーする新しい体験、高校はみんな違うけれど、チーム JAPAN としてメンバー全員で戦ったこと、テニスを通して巡り会えた国境を越える友達、オフコートでも笑いが溢れる男女メンバー達、それらの経験全てが私自身を明るく前向きな気持ちにさせてくれたと感じています。本当にありがとうございました。

そして、朝早くから充実した朝食を摂ることができ、送迎バスでコートに行き、試合では審判やボールパーソンのサポートがあり、試合から帰ると豪華な夕食が用意されているという、素晴らしく恵まれた環境だったことにも、とても感謝しています。

韓国、和歌山、中国との対抗戦の中で最も印象的だったのは、大会最終日に行なった中国戦です。私のシングルの相手は、180cm を超える長身の選手でした。試合をするまで、相手の情報が何もない状態なのは、国内大会では経験しないことなので新鮮でした。ファーストセットでは、同じチーム JAPAN の男の子がベンチコーチに入ってくれました。これもまた、1 つの新しい思い出であり経験だと感じました。そして 2-2 で勝敗がかかったダブルスでは、ジャッジやネットタッチなどのトラブルが多々あったものの、チーム JAPAN の熱い応援とペアのアシストのおかげで優勝を決めることができました。試合終了後も、しばらく胸の高鳴りが収まらなかったのを今でも覚えています。

最後に、今回引率してくださった門田先生、平良先生、前崎先生、本当にありがとうございました。先生方のサポートのおかげで男女優勝というこの上ない成績を残すことができました。この経験を活かしてこれからも頑張ります。



『第31回 日・韓・中ジュニア
交流競技会に参加して』

林 妃鞠

三重県

四日市商業高校 2年



今回、日韓中ジュニア交流協議会に参加させていただき、素晴らしい経験をさせていただきました。

私は今まで ITF など国内の大会ばかり出場していたため、海外の選手と試合する経験が少なかったのですが、韓国、中国の選手と試合することが出来、とても良い経験になりました。ボールの重さやメンタル、体格の違いなどいろいろな面で違いを感じることが出来ました。

そして、みんなで助け合って男女共に優勝することが出来て嬉しかったです。けれど、私は決勝戦で中国の選手に負けてしまい、悔しい思いをしました。今回参加させていただいたことで、海外の選手からだけでなく JAPAN チームのみんなから学んだ事も沢山ありました。その一つがアップの方法です。特に山本さんがチューブなどを使ってプロのようにアップしていて凄いと思いました。私は試合前に基本的なアップしかしていないから、試合のスタートが上手くいかず、立ち上がりが遅いのだと感じました。これからは良い状態で入れるように、しっかりアップしたいと思います。JAPAN チームは国内の強い選手が集まっていて、一緒に練習した時に技術面で気づくことも多く、とても勉強になりました。

交流会では歌を歌ったり、コップを積み上げるゲームやフラフープを潜るゲーム

をしました。そこでは盛り上がり方やゲームのやり方で、文化の違いがあって面白かったです。私は韓国の選手達と仲良くなることが出来ました。私は韓国語、韓国の選手は日本語を使って会話やチャットをしました。そして、ユニフォームを交換したり、沢山写真を撮りました。新鮮でいい思い出になりました。

最後に、この大会を開催していただきました関係者の皆様、引率していただいた門田先生、平良先生、前崎先生、一緒に戦ってくれたチーム JAPAN のみんな、本当にありがとうございました。

この経験を活かし、これから迎える全国高校選抜大会やインターハイで活躍できるよう努力を続けたいです。



第31回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

岡村凜那（鹿児島県：鳳凰高等学校）

まず、全国高体連テニス専門部の皆様をはじめ、今回の大会を運営してくださった和歌山県の皆様、引率してくださった門田先生、平良先生、前崎先生、本当にありがとうございました。

私は、今回初めて日本代表として試合に出場させていただきました。高校代表として出るいつもの試合とは違う緊張感がありました。日本代表として恥ずかしくない行動、試合をしなければと思ったからです。しかし、日本チーム男女が一丸となった応援が緊張を力にかえてくれました。

また、海外の選手と試合をすることも初めての経験でした。同じアジア選手なので、体格も日本人と似たようなものだと思っていましたが、中国の選手はとても身長が高く、プレーもそれに比例して攻撃的でした。こんなに体格差がある選手と試合をすることは今までになかったので、どうしたら自分のプレーをするこ

とが出来るのか考えながら試合をしなければなりませんでした。

今回は残念ながら、私個人としては海外の選手に負けてしまいましたが、自分に足りない部分が見えたり、また、体格差がある選手にも通用する自分のプレーを見付けたりすることができました。練習を積んで課題に取り組み、長所をもっと伸ばせば、海外の選手にも通用する選手になれると分かりました。これは、私にとってとても嬉しいことで、今回の結果を前向きに捉えることができました。

国際交流の面では、韓国の選手とたくさん話すことができました。互いに相手の国の単語を一生懸命調べながらでしたが、それだけでは中々伝わりづらい部分は身振り手振りを使うことで意思の疎通ができたと思います。とても有意義で楽しい時間でした。

今回、交流競技会に参加させていただき、普段ではできないような貴重な経験をたくさんさせていただきました。この経験を活かし、これからもテニスを一生懸命頑張っていきたいと思います。

「第 31 回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して」



水口 由貴（沖縄県・沖縄尚学高校）

今回、日韓中ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。

日本代表として試合に出場するのは初めてで、不安や緊張がありましたが、チームメイトや先生方に助けられて戦い抜くことができました。

1 試合目は、韓国との対戦でした。リードしていましたが、挽回されてしまいファーストセットを落としました。セカンドセットは攻撃的なテニスで相手のミス誘いました。ファイナルタイブレークはチャンスを掴めず 10-12 で惜敗しました。

2 試合は和歌山県チームとの対戦でした。相手のボールが甘くなったら積極的に攻撃することができました。流れが悪い時も落ち着いてプレーし勝利しました。

3 試合目は中国との対戦でした。ファーストセット 5-2 から 1 試合目の韓国戦の反省を活かして簡単なミスをなくし、6-2 で取ることができました。セカンドセットも 5-2 から気を抜かず 6-2 で勝利しました。みんなが沢山応援してくれたのでとても力になりました。中国と日本が 2-2 で、津田さんと組んでダブルスになりました。相手の 180 センチ越えの長身からの高速のサーブに驚きました。ファーストセットは相手のサーブと重いストロークに苦しめられ 4-6 で落としました。セカンドセットは相手のサーブをなんとか返し、津田さんの安定したストロークに助けられました。セカンドセットを取ってファイナルセットに入りました。男子もみんな応援してくれて緊張も楽しんでプレーすることができ勝利しました。日本は男女共に優勝することができました。

海外選手の意見の主張の強さに驚きました。新たな課題として、海外選手に負けない体づくりとサーブの強化、ネットプレーがさらに必要だと思いました。

今回の大会を通して、普段対戦できない選手と試合できたことだけではなく、コート外で声をかけて交流することができ、とてもいい経験になりました。この経験を活かしてもっと成長できるように日々努力したいと思います。

そして、今回の大会をサポートしてくださった大会関係者の皆様、引率をしてくださった門田先生、平良先生、前崎先生、本当にありがとうございました。

まず、コロナ禍により4年ぶりに本大会が開催されましたこと、本当に有り難く思っております。選手達は普段経験したことのない他国の選手との交流や、試合等を通じてわずか数日でたくさんの事を学べたのではないかと思っております。

特に日本スポーツ協会の山田さん、舟橋さんには大会前の準備から期間中の様々な手配までいろいろと大変お世話になりました。この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

結果としては、男女ともに優勝することが出来ました。第1戦の韓国戦では海外選手と戦うことが初めての選手もあり、どうなるのかと心配しておりましたが、男女ともに③－2で勝利することができました。2戦目の和歌山戦は、同じ日本人同士ということもあり、終始リードを保ち男女ともに④－0で勝利しました。3戦目は全勝同士の中国戦でした。男子は③－1で勝利しましたが、女子は最後のダブルスに勝負がかかり、スーパータイブレークを制し辛くも③－2で勝利をおさめることができました。

特に印象に残ったのは、中国選手のパワーでした。これは一朝一夕に身につくものではありませんが、やはりトレーニングの重要性を痛感させられました。

また、この競技会は、スポーツ庁の国庫補助競技会として実施されています。目的は、東アジア諸国との相互理解を深めること、及び、競技力の向上を目指して3カ国の持ち回りで開催されています。今回は和歌山開催ということもあり、地元の方々には大変お世話になりました。運営面でテニス協会の皆さんや、高体連テニス部の先生方、高校生のボールパーソンなど、本当にたくさんの方々のサポートがあつての競技会であつたと思います。

進行やその他諸々の案件などについて、常に相談をした上で進めていただいたテニス協会理事長の木村さんには特に感謝いたしております。

私自身、こういった国際大会に参加させていただくのは初めての経験で、正直とまどうことも多かったです。まず、大会前日の監督・審判会議で決めなければならない事柄が多いような気がしました。もう少し事前に打ち合わせが出来ていればもっとスムーズに会が進んでいたように思われます。その他、日々様々なことがあり、その都度、男女の監督と打ち合わせをしながら対応していましたが、テニス競技のなかでの合言葉は「臨機応変」でした。

また、この競技会が、もっともっと多方面に認知されるためには、もちろん各競技ごとのPRも必要ですが、やはり日本スポーツ協会を通じて、費用面で大変かと思いますが、各メディアへの大会の告知やポスター配布などのいわゆる「宣伝」に力を注いでいただければと、思っております。

最後に、選手達の感想の中にはこの大会を通じて、世界に羽ばたけるように努力していきたいといったものもあり、今大会の出場者の中から、どの競技からでもいいので将来オリンピックを輩出することを願って、終わりとさせていただきます。

このような機会をいただき本当にありがとうございました。